

学校だより

2024年8月から10月までの
資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

●8月25日 2級電子機器組立学科
(3年電気科)

●9月3日 2級電子機器組立実技
(3年電気科)

●10月4日 実用英語技能検定一次
●10月17日 リスニング英語検定
(2学年)

●10月21日 溶接JIS検定
(2年溶接科)

トヨタ工業学園交流会で

活発な意見交換

7月18から19日、トヨタ工業学園との交流会を実施した。トヨタ自動車の学校。日立製作所の学校。日本を代表する企業内学校で、それぞれの強みを共有する交流会となった。双方の更なる成長につながる機会作りを目的とし、職場で即戦力になるために何が必要かを考え、日常の取り組みにつなげることを目標とした。3月のトヨタ工業学園での交流会から具体的に取り組んできた内容の共有と、振り返りを実施した。グループディスカッションでは、生徒会、寮役員、部活リーダーと3つのカテゴリーに分かれ活発な意見交換をした。次につながる新たな目標



トヨタ工業学園交流会

を決め、日常生活での実践につなげていく。今後も定期的に交流会を重ねていき、日専校生としての「あるべき姿」に近づいていきたい。

3年電気科 海老沼 凛^{りんと}

今回、私がトヨタ工業学園との交流をさせていたくのはリモート交流も含めて4回目となりました。今回の交流では3月末に行った交流で決めた取り組みについての振り返りや今後どう改善していくかなどを中心にディスカッションを行いました。ディスカッションを行う中でトヨタ工業学園の訓練生が自ら積極的に発言・質問していたり、堂々と発表している姿を見て日専校生との差を感じました。コミュニケーション能力は各事業所で仕事をする際に必要不可欠な能力なので、コミュニケーション能力を向上していく必要があると感じました。ディスカッ

ションの中で出た反省やこれからの取り組みを2年生に引き継ぎ、学校がより良くなるきっかけになるようにしたいです。

今回の交流会で3年生は最後となりますが、同じ企業内学校であるトヨタ工業学園の訓練生と実際に交流して、多くの気づきや刺激を得ることが出来ました。10月からは工場実習となりますが、交流会で得たことを吸収して活躍できるように頑張りたいです。

3年生が就業体験

7月29日から8月7日にかけて3年生10名(男子生徒8名、女子生徒2名)が軽井沢プリンスホテル、アミーチアドベンチャーで就業体験を実施した。プリンスホテルでは、クロークの受付、お客様の送迎、荷物の受け取り・運搬など。アミーチアドベンチャーでは、ツリートレッキングのハーネス付け、トレッキング周辺の安全確認作業を体験した。

【目的】

①生徒のキャリア形成(成長に繋げる取り組み) 与えられた仕事だからではなく、なぜ今これをやるのかという「目的」を考える思考法の習得



ホテルでの就業体験

②入社後の顧客に対してのどのような貢献が果たせるかを考える顧客に対して常に真摯な態度で接して信用を重ね安心して何度も利用してもらえる「真の顧客」を創造していくプロセスの習得
③実習、入社に向けた社会人教育

【目標】

①仕事理解(仕事に対する考え方、真摯な取り組み、基準を体得する)
②自己理解(自身の強み弱みを理解し成長に繋げる)
③スキル理解(仕事で必要なスキルの習得)

3年電気科 土屋 更紗^{さら}

私は7日間の就業体験で、たくさんのことを学びました。まずは、コミュニケーションの大切さです。ホテルで働くとき、アミーチアドベンチャーで働くときと、同じ接客業でも言葉遣いや立ち振る舞いが大きく変わることを知りました。ホテルマンは、お客様に気持ちよく過ごしていただけるように、お客様に対してとても丁寧な言葉遣いや、手を前に組んでお客様に礼儀をもつて接するのですが、アミーチの方はお客様に楽しんでいただく事を最大の目的として少し砕けた言葉遣いや笑顔などが必要でした。目的に応じた言葉遣いや礼儀があり、工場実習でもそれに応じて対応していくことがこれからの大切なのだと感じました。また、アミーチの方では、お客様にやり方の説明をする際、自分は伝えたとつもりでも、相手には伝わっていないで間違え



打合せをする土屋さん(写真中央)

てしまっているお客様が多かったです。自分は伝えたとつもりでも、それが本当に伝わっているのか確かめることや、より伝わりやすい伝え方をすることの大切さを学びました。

次に、相手の立場で考えることの重要さを改めて実感しました。ホテル、アミーチのどちらとも、来てくれたお客様の顔や車のナンバー、名前を覚えるようにとご指導いただきました。最初はなぜ覚えなさいといけなのかなと疑問に思いましたが、考えてみると、もし、自分がお客様だった場合、去年も来たことがあって、「去年も来ていただけましたよね?」と言われたらとても嬉しい気持ちになると思います。自分がお客様だったらこんなスタフは嫌だ。こんな対応をしてほしい。という気持ちを常に持つて考えて接客をすることが大切なのだと気づきました。自分自身が良いと思っ

(8頁へ続く)

(7頁の続き)

も、お客様にとってはマイナスになってしまふこともあることを考え、客観的に物事を見ることが大事だなと感じました。そして、ホテルやアミーチの接客の中には、たくさんの工夫や努力があることを知りました。効率性、安全性など様々な面でお客様を第一に考えられている事に気づき、その努力や、今まで表面しか見たことがなかった裏の仕事をすることができて、仕事の重要性や働くことの大事さを感じました。今回一番成長を感じたことは、職場の方々やお客様とのコミュニケーションをたくさん取れたことです。今回の目標として、自分から積極的に話しかけることや、自分からたくさん質問することを掲げてこの体験に挑みました。その振り返りとして、今まで自分から話しかける事がとても苦手だったのですが、職場の方に自分から質問などをして、そこから会話を広げていく事ができました。また、お客様とも、ハートネスを取り付ける際や、荷物をお持ちする際、天気や気温、旅行でいらっしやったのかなど何気ない事を聞いて、コミュニケーションを取ることが出来ました。今までの自分より遥かに成長しているなと実感することが出来、とても嬉しかったです。

私たちはこれから接客業ではなく、現場で働くことになります。どの仕事にも、責任や信頼、コミュニケーションは大切なのだと思いました。本当に

貴重な経験をすることが出来、この経験を学校みんなに伝え、広げていき、工場で活かしていきたいと思いました。

オープンスクール開催 多くの中学生が来校

今年度も7月から計4回オープンスクールを開催した。対象は中学1年生から3年生。参加者は東北、関東、中部、近畿、中部、九州と広範囲にわたり、昨年比130%の来場をいただいている。内容としては、職員による学校説明20分間の後、在校生の案内で構内見学を1時間半、更に実習体験コースの方は機械実習と電気実習に分かれて実習体験を1時間半、実習体験においても、在校生がマンツーマンで補助をしてくれる。学校説明以外はほぼ全ての役割を在校生が担ってくれている。生徒なしでは成り立たないオープンスクールだ。参加者の方々からは「高校生とは思えないほどしっかりしている」、「我



オープンスクール(実習体験)

が子にもこうなつて欲しいと感じたなど、生徒に対してたくさんのお褒めの言葉をいただく。少子化により公立高校の倍率は下がる一方で、一見すると「入りやすくなってラッキー」とも取れるが、進路選択はとにかくいろいろな学校を見ることが重要。遊びにくるようなつもりで、ぜひお子さんをお連れいただければ嬉しい。

山口県、青森県で 学校説明会を開催

8月5日に山口県のJ R徳山駅前図書館、6日には日立製作所笠戸事業所、また、8月10日、11日にはそれぞれ八戸市、青森市、弘前市にて学校説明会を開催した。笠戸事業所での説明会は、過去最多の11組にご参加いただくことができた、見学対応などを含めて事業所側にもたくさんのご協力をいただいた。青森県での説明会は今年初めての試みであったが、テレビCM効果もあつてか、現地の方と直接お話ができる大変貴重な機会となった。

2025年度も同様の取り組みを行っていく。お近くの方はぜひ声をかけあつてご来場いただきたい。

若年者ものづくり競技大会

茨城県知事に入賞報告

7月31日、8月1日、Gメッセ群馬、群馬県立高崎産業技術専門学校、栃木県立県央産業技術専門学校において、厚生労働省および中央職業能力開発協会主催の第19回若年者ものづくり競技大会が開催された。本大会には20歳以下の



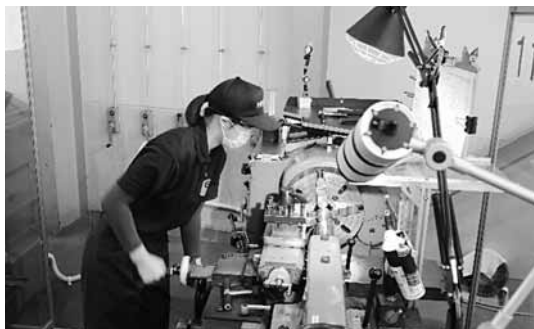
茨城県知事表敬訪問

企業未就業の職業能力開発施設および工業高等学校等の学生や訓練生354名が参加し、15職種で技術技能を競い合った。本校から3年生4名が出場し、旋盤職種(25名)において3年機械科の栗林佳奈が金賞(第1位)、フライス盤職種(23名)において3年機械科の近内悠が銀賞(第2位)、メカトロニクス職種(23チーム)において3年電気科の北川蒼衣、崎川真之介ペアが敢闘賞(第9位)を受賞した。8月30日に本校で伝達式を行い、茨城県職業能力開発協会の長谷川会長より、受賞者4名へ表彰状、メダル、盾が授与された。また、9月18日に茨城県庁を訪問し、大井川知事をはじめ産業戦略部長・次長へ受賞の報告に伺った。その記事は茨城新聞や社内報へ掲載された。4名の選手は技能五輪への出場をめざしており、今後の活躍を期待したい。

3年機械科 栗林 佳奈



私は、「訓練から本番を意識する」という目標を掲げて訓練に取り組みました。少ない訓練期間の中で、一日一日の目標を持つことや学ぶことの楽しさを忘れないことを意識しました。本番で発生した想定外なことにも冷静に対応することができ、最後まで諦めないことの大切さを実感しました。今後は技能五輪に挑戦したいと思っていますが、訓練を通して新たな自身の課題を見つけて改善し、事業所で活躍できるように努力していきます。このような貴重な経験をさせていただいた先生や応援してくださった皆様、ありがとうございました。



若年者ものづくり競技大会(栗林さん)

(9頁へ続く)

(8頁の続き)
3年機械科 近内 悠^ゆ



私は、「金賞をとる」ということを目標に訓練してきました。大

会本番ではとても緊張しましたが、自分の満足のいく課題を提出することができました。銀賞という悔しい結果になってしまいましたが、何もかもが初めてのことであり、とても良い経験になりました。これから技能五輪にもチャレンジしたいと考えているので、その訓練に活かしていきたいです。指導してくださった先生方や応援していただいた皆さん、ありがとうございます。

3年電気科 北川 蒼衣^{あおい}



私は、「今出せる自分の最大限の力を出し切る」という目標を掲

げて訓練に取り組みました。毎日の訓練を振り返り、一日一日の目標を立てて取り組むことで訓練の質を上げ、自分自身の成長に繋げることができました。本番では自分たちの全ての力を出しきることができずに悔しさと応援してくださった方々への申し訳なさが込み上げてきました。今後は、この大会で得た経験や教訓、悔しさを糧として、

技能五輪の訓練で自身のスキルを磨いていき、事業所で活躍できるように努力していきます。貴重な経験をさせていただいた先生や応援してくださった皆様、ありがとうございます。

3年電気科 崎川 真之介^{まのすけ}



私は、「楽しみながら、自分が出せる全力を出す」という目標を

掲げて訓練に臨みました。本番では訓練で学んだ知識と技術力を活かして全力を出しましたが、経験値が浅くミスが続いてしまいました。この大会を通して、競技中でも挑戦することが大切だと気づくことができました。今後は、今大会での悔しさをバネに、技能五輪の日々の訓練から全力で取り組み、事業所で活躍できるように努力していきます。貴重な経験をさせていただいた先生方、そして応援してくださった皆様、ありがとうございます。

部活動リーダー研修会

夏休みも終わり、一部の部を残し、多くの部の3年生が選手として引退した。そこで、部活動のリーダーの役員をそれぞれ3年生から2年生主体に引き継ぐべく、研修会を実施した。この1年間の振り返り、反省、これからの1年間の目標、計画などを、各部ごとに議論し、最



部活リーダー研修会

後に全体で発表して内容を共有した。3年生の旧リーダーがこの1年間、切磋琢磨し、難しい運営を実行してくれた。その努力に対して心より感謝したい。新体制には良き伝統を引き継ぐと同時に、改善を実行し、生徒自身が有意義な部活動を実施すべく、リーダーシップを発揮してほしい。

2年溶接科 埴 和樹^{かずき}

剣道部の新部長に任命された2年溶接科の埴和樹です。先日、各部の新リーダー（部長、副部長、生活指導）と共に部活動リーダー研修会に参加させていただきました。他の部活動のリーダーとグループになり、各部が抱えている現状の課題や改善点などについて話し合い意見を共有し、最後に各部の目

標、活動計画など発表を行いました。今回の研修を通して、これから自分たちが部員を引っ張っていかなければならないという実感が湧きました。今後は研修で学んだことを活かして、引退まで仲間と協力し合って全力で頑張っていきたいと思います。

寮委員研修会

9月20日午後には寮食堂にて開催された本研修会には10月から始まる3年生の工場実習に伴い、現2年生の寮生から新たに選出された11名の新委員と12名の旧委員が参加した。研修会のプログラムは以下の通り。

- ①校長、寮管理グループ長挨拶
- ②新委員挨拶
- ③旧委員による活動実績報告
- ④新委員によるグループ討議（活動スローガン、および全員リーダー制における役割決定）
- ⑤各リーダーによる活動指針発表

新委員はグループ討議を通して、更に良い寮にするための活発な意見交換を行い、活動スローガンを「全員が気づき、全員で築く寮」と決定した。

各委員には、委員長を筆頭に「安全衛生」「食事」「学習」など10種類のリーダー的役割を与え、各々が活動目標や具体的な活動内容を決め全員で共有できた。

今後、新委員を中心に全寮生が

考動（考えて行動）し、より良い寮を創りあげることが期待する。

2年溶接科 佐久間 貴大^{たかひろ}

今回、寮委員研修会に参加して、寮内での役割や責任を深く理解することができました。特にコミュニケーションの重要性を学び、協力して課題を解決する力が求められると感じました。また、一般寮生にどう伝えれば理解してもらえるか工夫をしながら説明をしなければならぬということ学びました。そして今までの先輩方の行ってきたことの大切さを知ることができました。

今後は、今回の研修で学んだことを活かして、寮委員長としての責任を持ち、積極的に考動していきたいと思っています。



寮委員研修会

3年生が工場実習開始



工場実習前教育

3年生は、日専校における教育プログラム最終仕上げとして、後期より就職が予定されている事業所の製造現場において約半年間の『工場実習』を実施している。9月24日から27日の4日間、工場実習に向けた心構えの習得を目的とした研修を実施した。校長訓話をはじめ、生徒指導や安全衛生に関する講話、『若者を狙う悪徳商法と対処法』と題した消費生活センター様による講演、実習中や就職後に役立つ3つのテーマを題材にしたグループ討論および発表、就業体験をした生徒や食育コンテスト受賞者による発表などにより、実習に向けた意識の向上を図ることができた。通勤が困難な一部の3年生を除いた寮生は2年半生活した日専寮を退寮し、10月2日から全員が無事に工場実習を開始した。

姉妹都市との国際交流

日立市はタウランガ市（ニュー

ジランド）、バーミングハム市（USA）と毎年姉妹都市交流をしている。本年度も両都市から、中・高校生がホームステイをしながら日本の文化を学ぶため来日した。10月7日にタウランガ市、15日にはバーミングハム市の中・高校生が日専校に来校し「モノ作り体験」と「剣道体験」を実施した。モノ作り体験では、生徒のカタコト英語でアドバイスをもらいながらヤスリかけを行い、オリジナルのペンダントを作成し、大いに喜んでいった。また、剣道体験では、剣道部員の協力で、実際に竹刀を持って打ち込みを体験し、日本の文化を肌身で感じてもらうことができた。生徒に感想を聞くと、イギリス英語とアメリカ英語の発音の違いなどを感じることができたとのこと。有意義な国際交流となった。



モノ作り体験

日専祭・保護者会



吹奏楽部による生演奏

11月9日、日専祭・保護者会が秋晴れのもと開催された。今年度は5年ぶりに一般来場者の参加もあり盛大に実施できた。1・2時限目は授業参観。それぞれの実習見学に加えて、各実習場には生徒の実習課題も展示された。その後、体育館で保護者会全体会とステージイベント。ステージではフアッションショーと吹奏楽部による生演奏が行われた。午後は部活動ごとのレクリエーションを行った。ホームページやポスター作成など全て考動アクション委員会が事前に準備を進め、当日の運営も生徒主体で実施された。また、飲食店の出店もあり、長蛇の列ができるほど盛況であった。締めくくりは、日工同窓会の先輩方による抽選会が実施され、生徒全員に景品が渡された。活気に溢れ思い出深い一日となった。

2年機械科 山本 歩

私は考動アクション学校委員会委員長、2年機械科の山本歩です。今回の日専祭の実行委員として準備企画運営を担当しました。初めてのことで苦戦することがたくさんありましたが、その中でも良かったことは事前の準備です。今回の日専祭では一般来場もあり、ウェブサイト・ポスター作成では興味を持ってもらえる内容になるよう心掛け、また、皆さんに日専祭を楽しんでもらうために考動アクション委員で意見を出し合いました。皆で協力して考え作成したことによって自信の持てるウェブサイト・ポスターが完成しました。

課題としては、全体を見て動くことの難しさです。各部活動が主催している活動が順調に行えているの



日専祭実行委員(考動アクション委員会)

かどうか、トラブルが起きていないかを常に頭に入れながら自分の仕事もこなすことの難しさを実感しました。周りの状況を知っておくことで、気持ちに余裕ができ、自分の仕事を行っている時でも臨機応変な対応ができると思いました。今回、考動アクション委員として日専祭の企画、運営を経験して、事前準備に力を入れたことで本番当日に焦った行動をすることなく、余裕を持った行動ができたと思います。また全体を把握して行動するというのは、リーダーが絶対にやらなければいけないことだと思っているので、失敗を何回も経験をして大事な場面でも失敗をしないような人財になりたいと思いました。

離任者紹介

松島 清美 先生

出身事業所

(株)日立製作所日立事業所
担当…工業基礎・機械設計



日専校で9年間お世話になりました。この間たくさん

業・学校行事を通して若いエネルギーをもらい楽しく過ごさせてもらいました。卒業生・現生徒が社会で活躍することを願います。また、これまでお世話になった皆様に感謝申し上げます。